

基礎・基本の定着と個性の伸長に関する研究

—「よさ」を生かす中学校英語科の学習指導—

福島県教育センター 長期研究員 林 宗一郎

1. 研究の趣旨

中学校英語科学習指導の中で、基礎・基本は、「基礎的・基本的な内容」ととらえ、個性は、「よさ」ととらえた。そこで、生徒一人一人の持っている「よさ」を把握し、学習内容とのかわり方で、表現特性や興味・関心に応じた指導の在り方を工夫することにより、基礎的・基本的な内容が身につく、「よさ」を生かし、伸ばすことができるものと考えた。

中学校2年生を対象にして以下のような内容で実践研究に取り組んだ。

2. 研究の内容

基礎的・基本的な内容の定着を図り、「よさ」を生かす英語科の学習指導の在り方を追究するために、指導の段階ごとの手だてを次のように考え、「個人カルテ」を活用し、その活用を図りながら、一単元を通して実践した。

- (1) 「よさ」の把握……学習全般に関するアンケート調査、英語学習に関するアンケート調査等
- (2) 「よさ」を生かす指導……表現特性に応じたグループ編成等
- (3) 「よさ」を生かし、意識化させる指導……興味・関心に応じたグループ編成、「よさ」発見カードの活用（自分の「よいところ」、友達の「よいところ」、教師から見た「よいところ」）等

○ 実践単元 Lesson 5 Emi Likes to Take Pictures

(New Horizon English Course 2)

3. 結果と考察

- (1) 「よさ」の把握の仕方についての結果と考察
- (2) 「よさ」を生かす指導についての結果と考察
- (3) 「よさ」を生かし、意識化させる指導についての結果と考察
- (4) 基礎的・基本的な内容の定着についての結果と考察

4. まとめ

今回の実践で、基礎的・基本的な内容の定着を図りながら、生徒一人一人の持つ「よさ」を生かす指導の在り方を追究する中で、生徒は自らの「よさ」を意識し、「よさ」を発揮した学習を展開していった。このことから、各段階で取り入れてきた手だてについては、有効であったと考えられる。このような学習の繰り返しが、生徒一人一人の持つ「よさ」を伸ばしていくものと考えられる。